

記 者 発 表 資 料

平成 28 年度 京浜港湾事務所の事業概要について

平成 28 年度の京浜港湾事務所の主な事業概要は以下のとおりです。

1. 横浜港においては、国際コンテナ戦略港湾「京浜港」の拠点ターミナルとして、増加するコンテナ貨物需要や船舶の大型化に対応するため、南本牧ふ頭地区で水深 18m の耐震強化岸壁を有する大水深コンテナターミナルの整備事業を実施します。併せて、完成自動車の取扱量の増加と自動車運搬船の大型化に対応するため、大黒ふ頭地区で水深 12m への岸壁増深改良事業を実施します。
また、南本牧ふ頭及び本牧ふ頭を結ぶ臨港道路を整備し、各ふ頭間におけるコンテナ輸送の効率化を図るとともに、南本牧ふ頭と背後の高速道路ネットワークを連結することで、南本牧ふ頭と内陸部間の輸送効率の強化と大規模災害時における輸送ルートの多重化を図ります。
2. 川崎港においては、東扇島地区の物流機能高度化に伴い、慢性化する交通混雑の緩和と、大規模災害時における輸送ルートの多重化を図るため、東扇島地区と内陸部を結ぶ臨港道路の整備を行います。

京浜港湾事務所ホームページURL <http://www.pa.ktr.mlit.go.jp/keihin/>

発表記者クラブ

竹芝記者クラブ、横浜海事記者クラブ、神奈川建設記者会、
神奈川県政記者クラブ、川崎記者クラブ

問い合わせ先

所 属	国土交通省 関東地方整備局 京浜港湾事務所
氏 名	副所長 小林 雅幸 (こばやし ひろゆき)
	統括建設管理官 入澤 一明 (いりさわ かずあき)
	第一工務課長 小笠原 政之 (おがさわら まさゆき)
	企画調整課長 有路 隆一 (ありじ りゅういち)
T E L	045-226-3765
F A X	045-226-3783

横浜港 南本牧ふ頭地区

〔横浜港南本牧ふ頭地区国際海上コンテナターミナル整備事業〕

平成28年度事業費：50.9億円

事業の概要

国際コンテナ戦略港湾（京浜港）の目指す姿として、港湾の民営化と国際競争力強化に向けた3港（東京、川崎、横浜）一体となった施策の推進により、コンテナ港湾としての国際的な相対的地位低下の打開、アジア主要港への対峙を図ります。

このような中、今後も増大が予想されるコンテナ貨物に対応するとともに、既存ターミナルの再編を進めるため、南本牧ふ頭地区において効率的な運用に不可欠な連続バースによる高規格コンテナターミナル（MC3・4）を早期に整備する必要があります。

平成27年4月にMC3が、一部供用されております。

平成28年度予定

岸壁（水深18m）（耐震）の本体工、地盤改良工等を実施します。

事業の効果

- 世界標準となる高規格コンテナターミナルを整備することにより、国際海上コンテナ物流において基幹的な航路である欧州航路や北米航路等に就航している18,000TEUクラスの超大型コンテナ船の入港が可能となります。船舶が大型化されることで大量一括輸送が可能となり、産業立地環境の向上と物流コストの低減が図られ、首都圏をはじめとする産業の国際競争力が強化されます。
- また、本事業により耐震性を強化した岸壁を整備することにより、震災時においても物流機能が維持されることで、我が国の産業活動と市民生活の維持・確保に貢献できます。



横浜港 大黒ふ頭地区

〔横浜港大黒ふ頭地区ふ頭再編改良事業〕

平成28年度事業費：1.0億円

事業の概要

横浜港は、我が国における完成自動車取扱拠点であり、関東一円に立地している自動車メーカーが完成自動車の輸出拠点及び移出入拠点として同港を利用しています。

一方で、横浜港大黒ふ頭においては、完成自動車の取扱台数、自動車運搬船の入出港隻数の増加や船型の大型化に伴い、岸壁のバースや水深の不足が顕在化しています。

これらの課題に対応するため、本事業では、既存施設（水深7.5m）の老朽化の修繕と併せて港湾施設の増深改良を行うことで、完成自動車の効率的な海上輸送を実現し、我が国の産業競争力の強化を図ります。

平成28年度予定

岸壁（水深12m）の調査・設計等を実施します。

事業の効果

○完成自動車取扱台数の増加および自動車運搬船の大型化に適切に対応し、完成自動車の輸出環境を改善することにより、全国に広範な関連産業を持つ我が国の自動車産業の国際競争力強化が図られます。



横浜港 南本牧ふ頭～本牧ふ頭地区

〔横浜港南本牧～本牧ふ頭地区臨港道路整備事業〕

平成28年度事業費：30.2億円

事業の概要

横浜港におけるコンテナ貨物の増大に伴い、コンテナ荷役の主力である南本牧ふ頭及び本牧ふ頭と背後圏との間、並びに流通機能が集積する大黒ふ頭との間を流動するコンテナ貨物車両が増加しており、交通渋滞が発生しています。

そのため、平成21年度から、南本牧ふ頭と本牧ふ頭を結ぶ臨港道路を整備し、物流関連車両の陸上輸送機能の強化を図っています。

平成28年度末に南本牧ふ頭から首都高速道路湾岸線を結ぶI期区間について部分完成を迎える予定です。

平成28年度予定

橋梁の上部工、橋面工等を実施します。

事業の効果

- 新たな臨港道路の整備により、横浜港と背後圏との間、並びに港内を流動する物流関連車両の交通が円滑化し、産業立地環境の向上と物流コストの低減が図られ、首都圏をはじめとする産業の国際競争力が強化されます。
- 交通円滑化の一例として、南本牧ふ頭地区～本牧ふ頭地区間の所要時間を4割短縮することが可能となります。
- また、南本牧ふ頭へのアクセス道路が複線化されることで港湾物流関連車両の動線が確保される為、事故や災害等の発生時においても円滑なコンテナターミナルの機能が確保されます。



川崎港 東扇島～水江町地区

〔川崎港東扇島～水江町地区臨港道路整備事業〕

平成28年度事業費：92.7億円

事業の概要

京浜港の中間に位置する川崎港東扇島地区は、総合物流拠点としての事業展開や流通加工機能を有する倉庫の新增設など高度な物流機能の集積が進展しており、京浜港の貨物の保管・配送拠点として、首都圏をはじめとする背後圏への貨物輸送の増加が見込まれています。

一方、東扇島地区への一般道からのアクセスは、川崎港海底トンネルのみであり、慢性的な渋滞が生じているとともに、危険物車両の通行制限により迂回を余儀なくされています。

このため、平成21年度から、東扇島と水江町とを結ぶ新たな臨港道路（橋梁方式）の整備を進めており、川崎港海底トンネルの渋滞解消を図るとともに、今後増加する物流関連車両の陸上輸送機能の強化を図ります。

平成28年度予定

主橋梁部及びアプローチ部の下部工、基礎工を実施します。

事業の効果

○新たな臨港道路の整備により、川崎港と背後圏等との間を流動する物流関連車両の交通が円滑化し、産業立地環境の向上と物流コストの低減が図られ、首都圏をはじめとする産業の国際競争力が強化されます。

○また、※基幹的広域防災拠点を有する東扇島地区等において、大規模地震等の災害時における陸上輸送ルートの上代替性が図られるほか、川崎市域とのアクセス向上により、東扇島地区等の就労環境が向上します。

※基幹的広域防災拠点：災害時において、緊急物資輸送の中継基地や広域支援部隊等の一時集結地・ベースキャンプとして機能する施設。通常時は公園としても機能する。

